

- ■表紙「梅シロップ」
- ■巻頭特集「きたかん Festival×Deli-J」
- ■群馬のおいしい贈り物「片品村」
- ■地域おこし協力隊「宮内渉さん(みどり市)」
- ■群馬の博物館美術館
- 「中之条歴史と民俗の博物館『ミュゼ』」 ■読者プレゼント





OMAMA BIBLIOTHEQUE 焼き菓子

JA前橋市荒砥支所倉庫(前橋市荒子町338-1)

人気ベーカリーが手掛ける

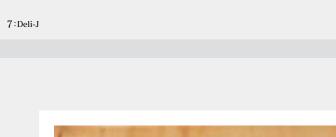
絶品焼き菓子の数々

POINT

今年の7月号巻頭特集「遠出しても行きたいパン屋さん」 に登場。表紙を「黒糖あんと発酵バターのビスケットサンド」 で飾ってもらった。サンドイッチと焼き菓子などが楽しめる 店で、Deli-Jピックアップゾーンでは焼き菓子を中心に販 売する。桐生市の人気パン店「ザ・ベーカリー」の姉妹店

だけあり、多くのファンを持つ。 群馬県産の小麦粉をベースにシンプルな製法で仕上げ、 素材そのもののおいしさや特長を生かした焼き菓子の 数々。旬の県産食材などを使ったマフィンや、オーガニッ クチョコレートとクルミがたっぷりのチョコチャンクスコー ン、カヌレなどのほか、ラスクやクッキーなどプチギフト にぴったりな商品もずらりと並ぶ。幸せなティータイムをも たらす、お気に入りの味を見つけよう。 どれを食べてもおいしい同店の焼き菓子。 オススメ あれこれ買って、家族や友人とシェアも

いかが。おやつ時間を楽しんで。





群馬カクタスクラブ

70周年を迎えるグループ

会員が栽培した植物が並ぶ

植物が並び、手ごろな価格で購入できる。

2023年11月号の巻頭特集「珍奇植物を育てよう」で紹介

したこのクラブは、群馬のみならず北関東3県でも唯一の 愛好家グループで、栽培歴は問わず100人以上の会員が世

界中のさまざまな植物を育成している。年に数回開催され

遠方からも愛好家が駆けつける展示即売会が、Deli-Jピッ

クアップゾーンで実現。3ブースに会員が栽培した質の良い

栽培歴50年以上のベテランである会長の倉林輝生さん

をはじめ、植物を愛する会員から直接話が聞けるのもうれ

しいポイント。今回は現在人気が高い品種を中心に販売

する。愛好家だけでなく初心者でも育てやすいものもあり、 同一品種でも一つひとつ表情が違うので、じっくり選んで。

人気のある品種だけでなく、お気に入り

の植物に出合うチャンス。愛好家に栽培

のアドバイスも聞いてみよう。

サボテンを原料にした和紙製品も登場する予定だ。

Deli-J

オススメ

POINT

サボテン・多肉植物愛好会 ノー

なか又

には全国から注文が入る。

仕上げた絶品のどら焼きだ。

Deli-J

オススメ

前橋から全国へファンを広げる

2019年2月号巻頭特集「前橋まちなかニューフェイス」で

オープンから半年ほど経った前橋本店を取り上げ、表紙で

は洋風にアレンジした2種類のどら焼き「わぬき」を紹介し

た。前橋の地域再生計画に共感した都内のデザイン会社

が運営するお店で、「食べるためだけではなく、人と人と

をつなぐための菓子」の考えのもと、「和む菓子」を届ける。

市内2店舗、東京・新宿に店を構え、オンラインショップ

前橋市章の名を冠したどら焼き「わぬき」、もちもちとし

た食感でギフトにも選ばれている「わもち」などがあるが、 今回ブースで販売するのは連日完売の人気商品「ふわふわ

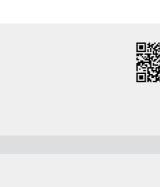
わぬき」。たっぷりのメレンゲを加え、しっとりふわふわに

一度見たら食べたい気持ちが抑えられな

いふわふわわぬき。要冷蔵なので持ち帰

りには保冷バッグを持参して。





和菓子



森の香 ハーブ製品 自家栽培ハーブを加工販売

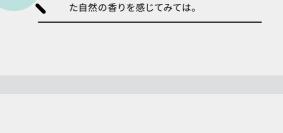
2023年10月号巻頭特集「おいしい魔法ハーブとスパイ ス」で紹介したこのお店は、テレビなどさまざまなメディア

で取り上げられている。土産物店や道の駅、直売所で人気

香りに癒やされる時間を

POINT

のハーブティーは、群馬を代表する名産品の一つに。自然 の森に近づけた栽培方法を目指して赤城山西麓で育てた ハーブを、収穫後すぐにドライ加工。ハーブコーディネーター の資格を持つ農場主の荒井良明さんが丁寧にブレンドし た。パッケージはJAMCOVER VILLAGEオーナー、オザワ さんのデザインによるもの。 自家栽培のハーブとモンゴルの秘境で採れた岩塩をブレ ンドした調味料「ムゲンソルト」は、「一振りするだけで一 流レストランの味になる」と評判。ハーブ農家ならではのオ リジナルスパイスカレーパウダー「アカギマサラ」も人気だ。 気分や体調、シーンで選べるハーブがあ オススメ る生活は心まで癒やされる。森で生まれ





JAMCOVER VILLAGE

デリジェイが20周年を迎えた2021年4月号の表紙をはじ

め、巻頭特集記事でもたびたび紹介してきた。店内はオー

ナーでデザイナーでもあるオザワリエさんの感性が詰まっ ており、アンテナの高さとセンスの良さがうかがえる商品

Deli-Jピックアップゾーンにも同店らしさ全開のブースが

登場。集めたくなる缶バッジ、たまごボーロなどのおやつ

や自家焙煎のコーヒー、中里見農園の果物で作ったジュー

スなど、見とれるかわいさのオリジナルデザインを施した

商品が並ぶ。また、カードやスタンプ、シール、ラッピン

グペーパーなどをセットした 「HAPPY BAG」 はぜひ手に入

れたい。贈り物にも喜ばれそうな商品ばかりで、子どもか

いつ訪ねても新発見

は見ているだけで胸が躍る。

ら大人までワクワクするはず。

抜群のセンスにときめく店

企 渋川市赤城町敷島701 2 0279-26-9360 営 9:00~17:00 休月~木曜

安中ヘルメットプロジェクト

2021年1月号巻頭特集「届け!広がれ!熱い思い未来へ

つなぐプロジェクト」で紹介。安中市の子どもたちにヘル

メットを届けることで防災意識を高めていくプロジェクト

で、2020年1月に始動。代表はロックバンド「G-FREAK

FACTORY」の茂木洋晃さんが務め、地元の若手有志らが

販売したオリジナルTシャツの利益全てを防災用ヘルメッ

トに変えて配布し、すでに市内の全小学生には配布が完了

した。現在は2023年度から3カ年で市内の全中学生に寄贈

する計画の2年目。10月ごろからの各中学校へのデリバリー

今回の出展では、Tシャツの販売 (1枚2,500円) を行う

Deli-J

ンで、使いやすいのがうれしい。

Tシャツを購入することで参加できるボラ

ンティア。老若男女が着こなせるデザイ

ほかパネル展示などを予定。Tシャツの購入が、未来を担

子どもたちにヘルメットを届け

防災意識を高めていく

ボランティアとして活動している。

う子どもたちを守る活動につながる。

オススメ

ボランティア活動

Deli-J:6

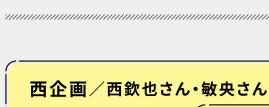
Deli-J: 8

1.かわいいイラストが描かれたパッケージが目印のハーブティー

2.ハーブ&スパイスミックス調味料「ムゲンソルト」

3.オーガニックソープなどの商品も開発



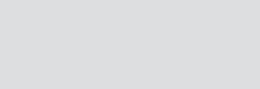


より良い毎日を過ごすために 九星学で読み解く運勢 2022年1月号巻頭特集「運を味方につける2022年」で、

9年をサイクルに生まれ年の九星(本命星)により運勢や相

性、方位などの吉凶を読み解く九星学で1年の運勢の導き

出し方を紹介した西敏央さん。運をデザインする手帳「ゆう きこよみ」を製作する会社を父・欽也さんと運営する。九星・ 方位・運勢など、暦の読み方講座を富岡市で始めてから 50年。それらの専門知識を用いた吉凶鑑定も行う。 ブースでは完成したばかりの「ゆうきこよみ2025」をお 披露目予定。また、九星占いコーナー(10分2,000円)も設け、 生年月日で決まる九星を元に、転職・転居・建築・結婚・ 起業にベストなタイミングや、自分にとっての天職・適性、 また長所・短所などを提案。知りたいこと、聞きたいこと をリストにして訪ねよう。 Deli-J 気軽に本格的な占いをしてもらえるまたと オススメ ないチャンス。運を味方につける「ゆうき POINT こよみ」もゲットしよう。 ※情報は7月時点でのものです。出展内容などは変更になる場合もあります。









梅加工品

秋間梅林観光協会

梅農家が手塩にかけて作る

おいしい自慢の味が一堂に

今年4月号から始まった連載企画「地域おこし協力隊」の第 1回目にも、安中市の地域おこし協力隊として活動する若 葉さんが登場した。同協会には10軒の梅農家が所属する。 今回のブースで販売する梅加工品の中でも、特に注目 したいのは5軒の農家が作った梅干し。塩分濃度が同じ でも、農家ごとに風味の違いがあるという。食べ比べを して自分好みの梅干しを探してみるのもおすすめ。ほかに も梅ジュースや梅シロップ、梅ジャムやお菓子などが並ぶ。

2021年3月号巻頭特集「群馬の兄弟・姉妹」で紹介した、

黛青葉さん・若葉さん双子姉妹の職場でもある安中の名所。

さらにギフトセットも販売するので、大切な人への贈り物 にも最適。丁寧に育てられ、おいしく仕上がった梅製品 を堪能しよう。 Deli-J 熱中症対策にも役立つ梅製品は、暑い夏 オススメ こそぜひ用意しておきたいものの一つ。 POINT どれにしようか迷いそう。





2 9:00~15:00









37:Deli-J

と、同市に移住し農業を始めた。

志向の食を提供できたら」と抱負を語った。

天気に左右されることも多く、柔軟な対応が求められる農業。

座学での専門知識を身につけていないため、実践から多くを学ん

でいるところだ。「うまく両立できています。ずっと続けていきた

い」と笑顔の宮内さん。6次産業化に関心を持ち「野菜たっぷりの

ランチやブルーベリーを使ったスムージなど、アスリートに健康







旧小学校の建物を活用し

地域の歴史を伝える



